

高橋道政支持率の構造と背景

高橋知事と上田市長の比較分析―世論調査結果から

僧
都
儀
尚

はじめに―分析の視座

これまで国政選挙の分析を行ったことはありませんが、道政など地方政治については世論調査を含めやったことがなく研究会では、どう分析して報告すべきか悩みました。

国政選挙を分析する場合、例えば民主党の傾向や特徴をつかむには、自民党、新党大地といった政党と比較して特徴を浮き彫りにしてきました。では、高橋はるみ知事、高橋道政をどのように分析するか。同時期に選挙に初出馬し、同じように混戦を制し、支持母体は違いますが共に現在三期目の上田文雄・札幌市長を比較対象にして、高橋知事の支持状況の特性を浮き彫りにできるとの仮説に立って分析することにしました。

分析のステップは、高橋知事と上田市長の共通点、傾向を探り、次に両者の相違点を洗い出し、高橋知事の特徴や強さの要因はなにか。さらに、高橋知事の裏側には何があるのか考えてみます。分析に用いたデータは、二〇〇三年以降、北海道新聞社が行った全道と札幌市の世論調査です。

1 高橋知事と上田市長の共通点

両者とも高い支持率の推移
「まあ良い」が支持の基盤に

支持状況の分析として、一つ目は、高橋知事と上田市長の共通点を考えてみます。

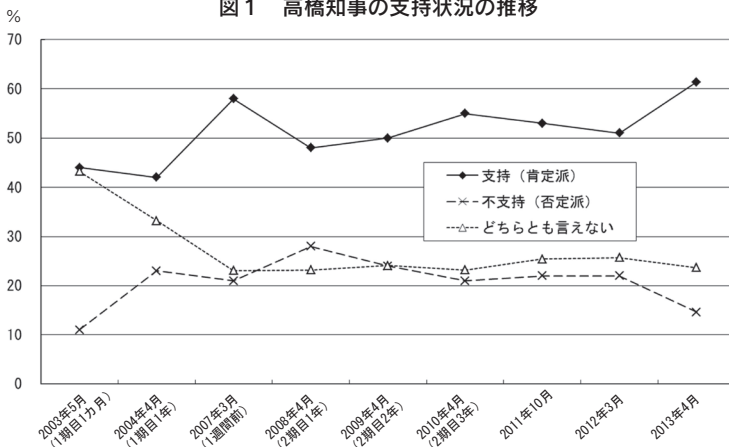
調査年次の飛んでいるところがあるので、本来ではあればグラフにしないのですが、分かりやすくするためにあえてしました。また、後でみる上田市長の調査年次も異なっているので、その点も留意してください。

高橋知事は比較的高い支持率で推移し、一二年から一三年にかけて急上昇しています。「不支持」と中間的な回答の「どちらとも言えない」は、比較的安定しています(図1)。

上田市長も高支持率で推移していますが、中間回答の「どちらとも言えない」は、一〇年、一三年と低下しているのに対し、不支持が増加傾向にあります(図2)。

二人とも支持は安定し、その割合はともに高く、

図1 高橋知事の支持状況の推移



近年は上昇傾向を示しています。

図2 上田市長の支持状況の推移

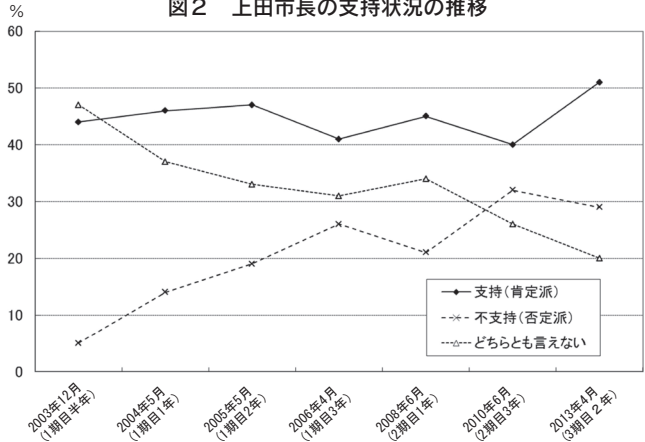


図3 高橋知事の支持状況の推移

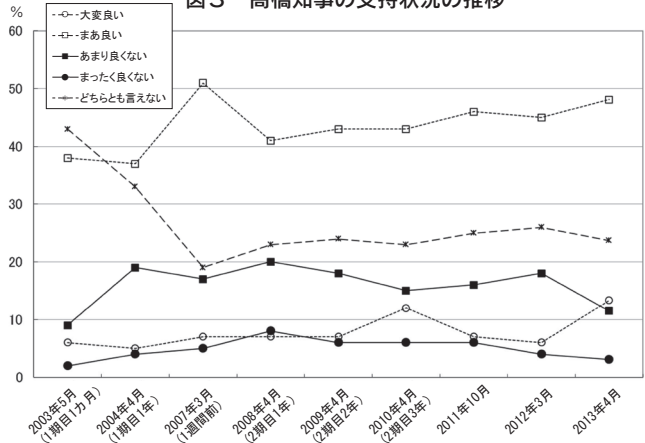
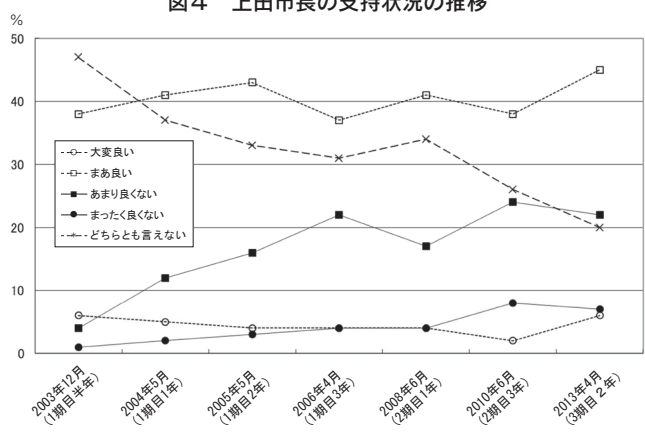


図4 上田市長の支持状況の推移



高橋知事の支持状況を詳しくみてみます。道新の調査は、「大変良い」「まあ良い」を合わせて「支持」、 「あまり良くない」「まったく良くない」を合わせて「不支持」とし、そして「どちらとも言えない」の五択になっています。これが内閣支持率の調査だと、支持する、支持しないと選別肢は少ないのですが、一九九五年に就任した堀達也元知事の時からの五択を踏襲しています。さて、高橋知事の支持は、「大変良い」の強い肯定と、「まったく良くない」の強い否定の割合は低く、「まあ良い」という中間的な意見が多い

のが特徴です(図3)。高支持率といわれながらも、まあまあ良いと思っているのが大半を占めている結果です。上田市長の支持状況の推移も全く同じ状況です。「まあ良い」の中間的な評価が多く、強い肯定の「大変良い」と、強い否定の「まったく良くない」は少ない(図4)。

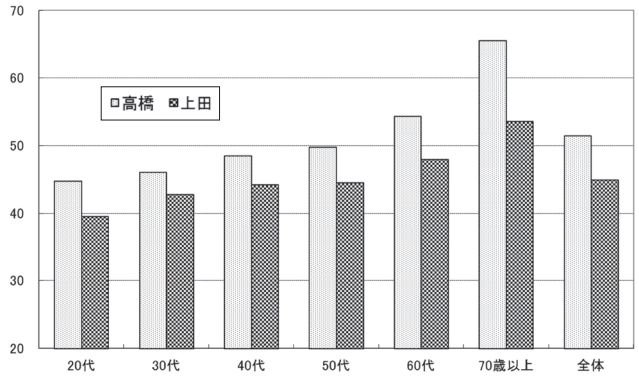
さらに、自民党支持の高低と高橋知事の支持率とは関係があるのだろうか。例えば、〇七年に自民党支持は低下しましたが、知事の支持率は急上昇し、〇八年は自民党支持と知事の支持は同じように微減傾向を示しますが、その後の推移をみる

と、必ずしも明確な相関関係は見られません。同様に、上田市長の支持率と民主党支持率に明確な相関関係は見られず、一〇年以降、民主党支持は急減するのに上田市長の支持率は上昇しています。両者の支持は、政党支持とは相関関係になく国政と連動していません。

**支持と年代の顕著な相関関係
各政党支持層へ広がる支持**

高橋知事の年代別支持率の推移をみると、七〇

図5 年代別における高橋知事と上田知事の平均支持率



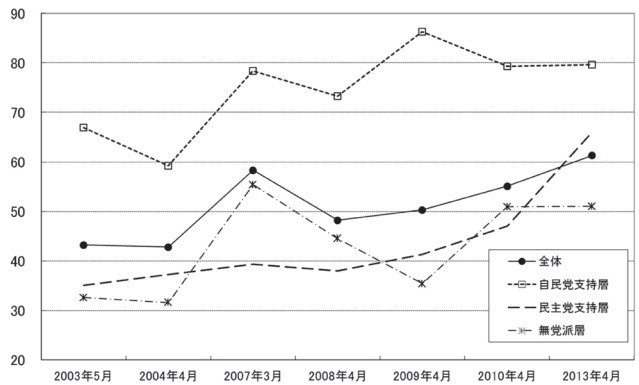
歳以上の高年齢層の支持が、全体平均値を大きく上回っており、これが大きな特徴です。上田市長も同様に、七〇歳以上が全体平均値の支持率を上回っています。

【図5】は各年代の支持率の平均値です。両者とも年代が上がるにつれて支持の割合は高くなりま

す。上田市長は緩やかに上昇していますが、高橋知事は年代が高くなると支持が急増します。高橋知事は高年齢層での支持の高さが顕著です。

次に支持政党別による両者の支持の推移を見てみます(【図6、7】)。自民党支持層で高橋知事の支

図6 高橋知事の支持推移・支持政党別

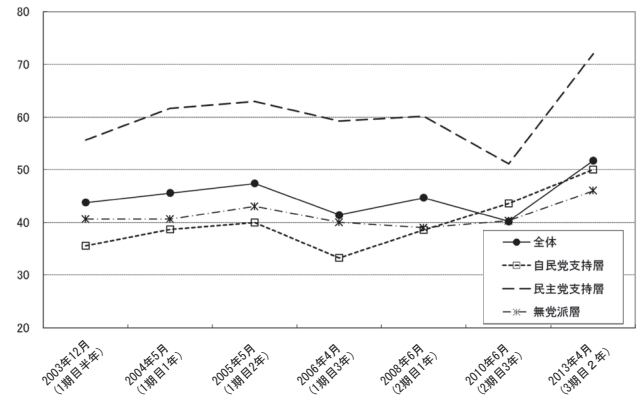


持が高いのは当然ですが、民主党支持層の中でも次第に支持率が高くなり、他党にも支持が浸透している。一方、無党派層の支持は振幅があり、やや安定性に欠けます。

上田市長は、民主党支持層の支持率が高く、さらに自民党支持層の支持は〇八年の調査から一貫して上昇しています。無党派層の支持は、ほぼ横ばいで推移し安定しています。

民主党支持層だけの高橋知事の支持状況をみると【図8】です。〇八年以降、支持率は上昇傾向にあり、一時期を除き、民主党支持層の中でも支持

図7 上田市長の支持率推移・支持政党別

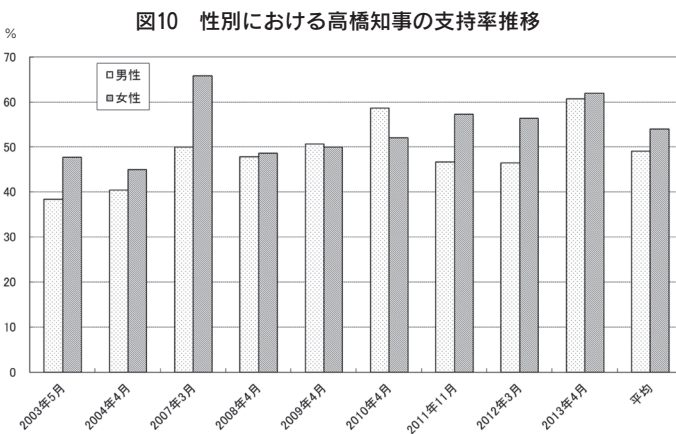
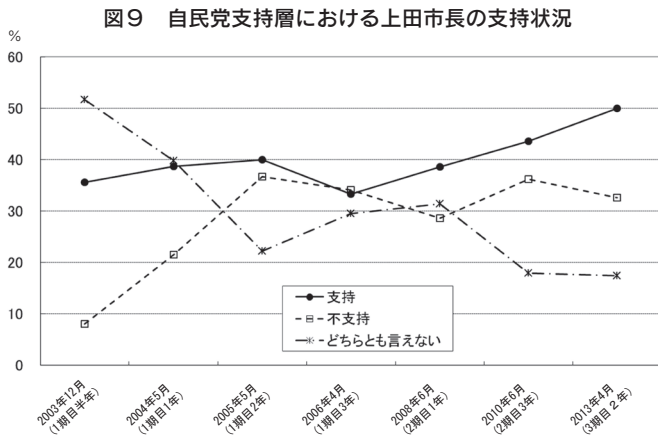
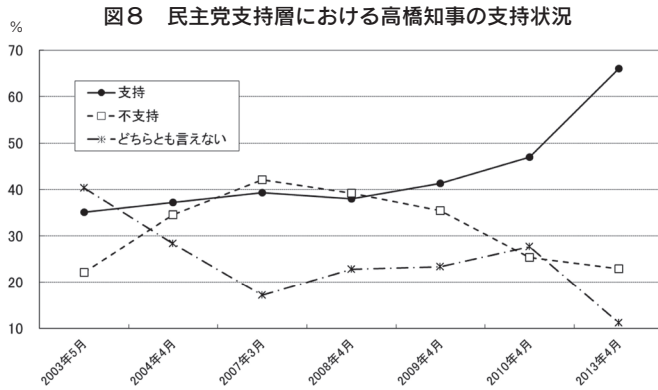


が不支持を上回り、一三年に支持率は急増しています。当然ながら不支持は低下しています。

では、上田市長の自民党からの支持はどうなっているのか。同様に、一時期を除き自民党支持層からの支持が不支持を上回り、〇六年以降、支持は上昇傾向にあります(【図9】)。

共通点のまとめ
 ↓ 国政に左右されず支持安定

高橋知事、上田市長ともに支持の中身を見ると、



強い肯定と強い否定は少数派で、「まあ良い」というやや曖昧な評価が大半を占めています。「まあ良い」の平均値は高橋知事四四％、上田市長は四〇％です。

両者は比較的高い支持率で推移し、近年は上昇傾向にあります。調査年は異なりますが、高橋知事の支持率は一二年に五一％だったのが、一三年は六一％と一〇ポイント増加しています。上田市長は一〇年の四〇％から、一三年は五一％の支持率になり、一三ポイント増えています。

政党支持率と両者の支持率には相関関係は見られないので、国政に左右されず、支持は安定します。また、無党派からの支持も一定しています。さらに、年代が上がるにつれて支持が強まり、特に高橋知事は高年齢層からの支持がより顕著です。支持母体と敵対する政党支持層との関係では、一時期を除き、支持が不支持を上回っており、これも国政に左右されていない現象であり、支持の安定化につながっています。そして敵陣の中で支持が拡大しています。

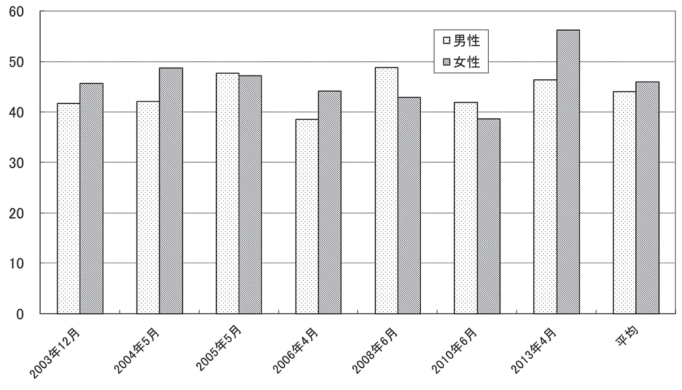
以上の分析から、こうした共通項が見られます。

2 高橋知事と上田市長の相違点

支持率上昇のそれぞれの背景

高橋知事と上田市長の相違点は、傾向は同じでも強弱が見られることです。これまでの調査結果を合算し算出した平均支持率は、高橋知事が五一％、上田市長は四五％で、高橋知事が上田

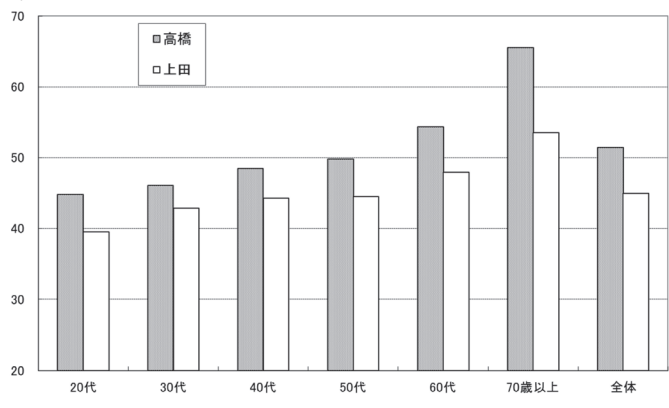
図11 性別における上田市長の支持率推移



市長を上回っています。両者の平均不支持率は二一％で同率ですが、上田市長は上昇傾向にあるのに対し、高橋知事は一定で最近では下降しています。

性別でみると、高橋知事の支持は一時期を除き女性が男性を上回っており、平均値は女性五四％に対し男性四九％です。知事の支持は近年急上昇していますが、その要因は男性の支持が高くなつたからです。一二年三月の調査は男性支持率が四六％でしたが、翌一三年四月の調査では六一％、

図12 年代別における高橋知事と上田市長の平均支持率



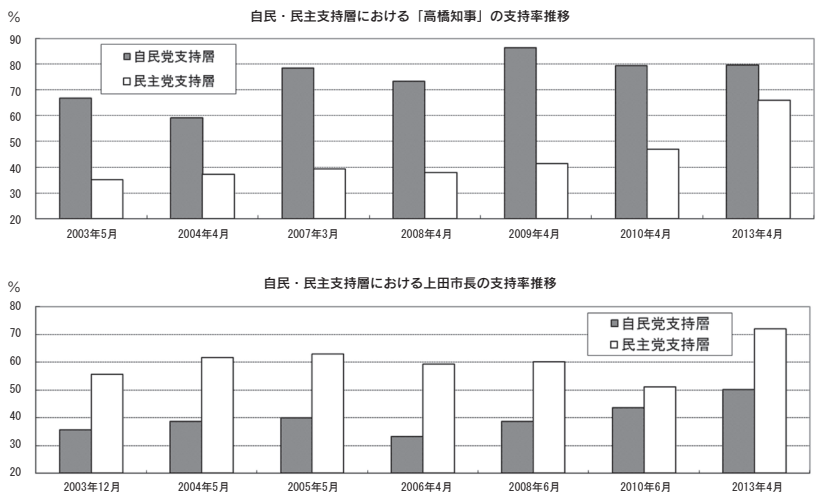
一五ポイントも急増しており、これが支持率上昇の原動力になっています(図10)。

上田市長の平均値は、男性四四％、女性四六％とほぼ同率で、高橋知事ほど性差はありません。

直近の調査で支持率が急増したのは、女性支持率の上昇によるものです。一〇年は支持率が三九％でしたが、一三年の調査では五六％、前回比一七ポイントも急増するなど女性の支持拡大が支持率上昇を引き起こしました(図11)。

このように、近年の高橋知事と上田市長の支持

図13 自民・民主支持層における高橋知事と上田市長の支持率の推移



率上昇の要因には、男性、女性という相違があります。

年代別では、両者とも年代が上がるにつれて支持率は高くなりますが、すべての年代で高橋知事が上田市長をリードし、高年齢層では大幅に上回っています。特に七〇歳以上では、高橋知事六六％

に対し上田市長が五四％であり、一二ポイント差と大きく引き離しています（図12）。

また、七〇歳以上に限ってみると高橋知事の支持は高率で推移しており、この年層からの支持は、上田市長に比べ盤石な基盤といえます。

支持母体以外への浸透度

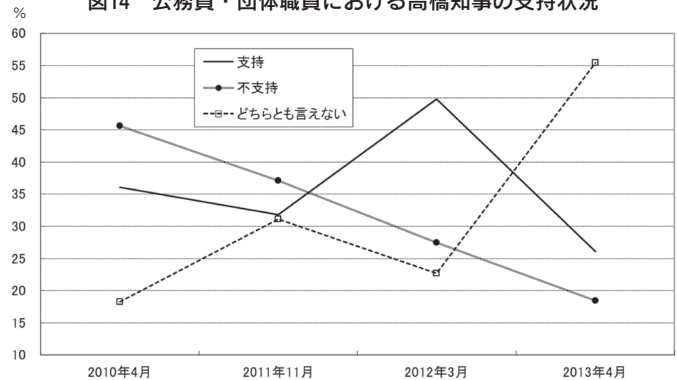
両者とも支持母体からの支持率は高いのですが、高橋知事は自民党支持層からの支持が七五％、上田市長は民主党支持層からの支持が六〇％と圧倒しています。無党派層からの支持はほぼ同率で、また敵陣営からの支持も互角の状況です。

自民と民主支持層における、高橋知事、上田市長への支持率の推移を表したのが図13です。先程示しましたが、敵陣営からの平均支持率は、両者あまり差はありませんが、近年の推移をみると、一〇年調査は高橋知事への民主党支持層からの支持は四七％でしたが、一三年では六六％と一九ポイントも増えています。一方、上田市長への自民党支持層からの支持も一〇年の四四％から、一三年は五〇％へと伸びていますが、両者の差は一六ポイントへ拡大しています。近年の侵食度合いは、高橋知事の方が大きくなっています。

高橋知事―主婦と無職で高い支持

職業別における支持状況の分析は、道新が新しい職業分類を導入した関係で、一〇年以降の高橋知事の調査だけが該当します。先程示したように、

図14 公務員・団体職員における高橋知事の支持状況



高橋知事は女性と高年層で支持が高いので、職業別では「主婦」と「無職」で支持が高くなっています。しかし、「公務員・団体職員」の三年間の平均支持率は四二％と、全体平均値の五七％を大きく下回っています。

公務員・団体職員の民主党支持率は一貫して高く、民主党が劣勢に立たされた一二年一二月の衆院選においても、この層の民主党支持率は高かったです。ここに知事の支持と国政との連動性が垣間見られます。公務員・団体職員だけを抜き出してみ

ると、支持、不支持ともに低下しています。支持率の低下は、単に不支持が伸びたのではなく、支持・不支持層が中間派の「どちらとも言えない」に転じたことが原因です（図14）。

参考までに、〇七年と一一年の投票票日出口調査の結果を比較すると、性、年代別で得票率が最も伸びたのは、高橋が五〇代の一三ポイント増、上田は六〇歳以上の四ポイント増です。さらに、高橋の民主党支持層からの得票は、二二％から四四％へと倍増しますが、上田の自民党支持層からの得票は三三％から三二％へ微減しています。

相違点のまとめ

各層への浸透は高橋知事に軍配

高橋知事の平均支持率は五一％で、これまでの最低値は四二％、最高値は六一％でした。上田市長の平均支持率は四五％、最低値は四〇％で最高値は五一％という結果で、平均値と最高値は高橋知事が上回っています。

一方、平均不支持率は両者とも同率ですが、高橋知事の不支持率は減少傾向に転じましたが、上田市長は上昇と対照的です。

性別では男性の平均支持率は、高橋四九％、上田四四％。女性の平均支持率は高橋五四％、上田四六％となっています。いずれも高橋知事がリードしており、かつ女性が強い支持基盤になっています。

近年の支持率急増の要因は、高橋知事が男性の支持上昇で、一二年の四六％から、一三年は六一

%と、一五ポイント増。一方、上田市長は女性の支持上昇で、一〇年の三九%から、一三年は五六%と、一七ポイント増加しています。

年代別の平均支持率では、全ての年代で高橋が上田を上回っています。両者の差が最も開いたのは七〇歳以上の高年層で、高橋六六%に対し、上田は五四%です。

このように、高橋知事の支持基盤は、女性と七〇歳以上の高年層にあることが調査から分かります。

3 高支持率の裏側あるもの

異なる支持する理由の内容

世論調査では、知事もしくは市長を支持する、しないを聞いたあとに、その理由を聞いています。

ただし、調査時に注目されている事や関心の高い事を聞くので、毎回選択肢は変わり、さらに高橋知事と上田市長の選択肢は異なるので、両者の比較分析は難しい。

そこで、表1のように、それぞれ支持する理由で最も多かったものを取り上げてみました。いくつかの選択肢から、一つだけ選ぶ単数回答は両者共通しています。

知事に就任した〇三年から順に見てみると、〇三年は「人柄が

表1 高橋知事・上田市長の支持理由

高橋知事の支持理由(単数回答)		
2003年	人柄が良い	29%
2004年	財政再建への取り組みが良い	29%
2005年	財政再建への取り組みが良い	38%
2007年	行財政改革へ取り組みが良い	28%
2008年	行財政改革へ取り組みが良い	34%
2009年	政治姿勢が良い	35%
2010年	人柄が良い	28%
2013年	目立った失策がない	35%
上田市長の支持理由(単数回答)		
2003年	市民中心の市政を目指している	41%
2004年	政治姿勢に共感できる	34%
2005年	政治姿勢に共感できる	30%
2008年	市民自治・市民密着型の市政を推進しているから	34%
2010年	市民の声を重視しているから	48%
2013年	市民の声を重視しているから	41%

よい」、〇四と〇五年は「財政再建への取り組みが良い」、〇七と〇八年は「行財政改革へ取り組みが良い」、〇九年以降は、「政治姿勢が良い」「人柄が良い」「目立った失策がない」が多かった。

一方、上田市長は、〇三年が「市民中心の市政を目指している」、〇四、〇五年が「政治姿勢に共感できる」、〇八年が「市民自治・市民密着型の市政を推進しているから」、一〇、一三年は「市民の声を重視しているから」が最多となっています。

さらに、高橋知事の支持理由は三〇%台から五〇%移していますが、上田市長は三〇%台から五〇%近くで推移しており、高橋知事より数値が高くなっています。一つの選択肢に意見が集まるのは、多くの市民が瞬時に思い描くことが選択肢の中にあるからです。つまり、市民に浸透しているシン

ポリックな政策が上田市長にはある、という見方ができます。

高橋知事の場合、評価が分散し、しかも抽象的で消極的な項目が多いのは、シンポリックな政策がないことが要因として考えられます。「人柄が良い」は抽象的な項目ですし、「目立った失策がない」は、受け止め方によってはマイナスの印象で消極的評価といえます。高橋知事に目立った成果がない中、財政再建、行革への取り組みの割合が高いのは、電話調査ということもあり、取りあえず無難に答えておこう、という気持ちが働いたのかもしれない。

政策・実績評価と知事の統投

高橋知事の政策・実績評価については、知事就任後から何回か聞いています(表2)。就任間もない〇三年では、「期待する」が七十二%と高いのは当然ですが、〇四年の道州制導入は「期待しない」が五八%、〇五年の景気対策は「評価する」四三%、〇七年の支庁再編は「問題あり」六五%、一一年の泊原発3号機稼働容認は「問題あり」六五%、そして直近の一三年調査では、高橋道政一〇年で北海道は変わったかという問に対しては、「良くなった」が三二%にとどまり、「変わらない」が五六%と半数を超えています。

高橋知事の支持率が高いのですが、政策・実績評価は決して高くないのです。

次に、高橋知事の統投と民主党の対応については、過去三回調査をしています(表3)。

表2 高橋知事の政策・実績評価

2003年 景気雇用対策への期待度	期待する	72%
	期待しない	28%
2004年 道州制導入への期待度	期待する	35%
	期待しない	58%
2005年 景気雇用対策への評価	評価する	42%
	評価しない	33%
	どちらともいえない	25%
2007年 支庁再編の是非	賛成	43%
	反対	51%
2011年 泊原発3号機再稼働容認への是非	問題なし	33%
	問題あり	65%
2013年 高橋道政10年で北海道は、どう変わったか	良くなった	32%
	変わらない	56%
	悪くなった	12%

表3 高橋知事の続投と民主党の対応

2005年 2年後の知事選に向けて続投を期待するか	期待する	64%
	期待しない	32%
2010年 1年後の知事選に向けて民主党の対応	独自候補を擁立すべき	30%
	相乗りすべき	8%
	どちらともいえない	61%
2013年 知事は4選を目指すべきか	目指すべき	50%
	交代すべき	44%

高支持率の裏側にあるものは

一期目の〇五年は、二年後の知事選の続投を期待するまで、「期待する」六四%、「期待しない」三二%という結果です。知事二期目の一〇年は一年後の選挙に向けて民主党の対応は、「独自候補擁立」三〇%、「相乗り」八%で、「どちらともいえない」が六一%と最多でした。

そして三期目折り返しとなる、一三年調査では、知事は四選を目指すべきかという質問に対しては「目指すべき」が五〇%、「交代すべき」が四四%と拮抗しています。高橋知事の続投論は意外に強くなく、弱まっているようです。

以上から高橋知事の特徴をまとめると、第一に、支持理由は人柄が良く、目立った失策がないなど抽象的で消極的な項目が多い点があります。

第二は、高橋道政一〇年で北海道は「変わらない」が半数を超え、高橋知事が肝としてきた政策や政治的決断については否定的で、政策・実績評価は決して高くない。

第三は、続投論の賛否は二分されています。高支持率なのに、なぜこうした否定的な要素が

見られるのか。これは推論ですが、高橋道政にける道民の視線は意外に冷ややかなのは、これといった実績がないことを道民が客観的に認識していることの表れだと思われれます。

それでも高支持率なのは、支持が政策などの政治的要素ではなく、人柄、見た目、女性といった知事個人の表面的な部分と結びついているからだと考えられます。

つまり、高橋道政を支えているのは、ふわふわとした「曖昧な世論」ではないだろうか。以上で報告を終えます。

へそす のりひさ・北海道新聞情報研究所調査研究部長

※高橋知事の平均支持率は〇三年五月から一三年四月まで実施した調査から九回分を、上田市長の同支持率は〇三年一月から一三年四月までに行った調査から七回分を抽出し算出した。

本稿は、二〇一三年一月二〇日の北海道世論調査研究会での報告をまとめたものです。

文責・編集部